

## いかさま師の末路

今から20年ほど前、京都府庁の庁舎新築のため、発掘調査をしました。ここは、かつて南北方向の西洞院大路と東西方向の近衛大路の交差点であったところです。平安時代の道幅が24～30mあったものが、徐々に町屋に侵食され、戦国時代には西洞院大路は10mほどになっていました。この交差点の南東部に金箔瓦を含む瓦溜りと一部重複した遺構が見つかりました。そこには、数片の骨片と、骨角製のサイコロ1点、鉄製のナタ1点があったのです。おそらく、墓であったのでしょう。このサイコロは一部欠けていて、中を見ることができました。なんと内部は球形に削り貫かれていたのです。出土した場所は道路に近いところで、おそらく築地に葺かれていた瓦を捨てた場所に墓を作っていたのです。

サイコロは普通のとおりに目を付けていました。すなわち、1と6のように裏面の数字を足すと7になるものです。しかし、中は一方に偏って削り貫かれていたのです。イカサマサイコロの出土です。中に砂でも入れれば一方が重くなり、この場合は1の数字側に穴を開けていたようです。ナタはこの墓の主が建築関係の仕事に従事していたことを窺わせます。

1日の作業が終わり、サイコロを振って賭け事をしていたのですが、イカサマが発覚して・・・。

約400年前の出土品で、一つのドラマが作れそうです。

(伊野近富)



出土した「いかさま」のサイコロ